■藤岡作太郎 国文学者。近代国文学を開拓し、早世。

ふじおかさくたろう

初の日刊新聞1870＝ 加賀金沢で維新後戸長を務める旧藩士の長男に生まれる。

学問のすすめ1872＝ 2歳：喘息の発作が起き、以後持病となる。

明治6年政変 1873＝ 3歳：

三つの内乱・1876＝ 6歳：町内の小関成安の私塾に入ると、記憶力の良さで周囲を驚かし、石川県からも賞された。

大久保暗殺・1878＝ 8歳：新塹町小学校設立とともに入学、

沖縄県編入・1879＝ 9歳：

明治14年政変1881＝11歳：

岩倉具視没・1883＝13歳：補欠試験を受けて、石川県専門学校付属初等中等科に転入、
持病のため欠席が多かったものの、常に首席で、文章や図画は抜群であった。

内閣発足・1885＝15歳：父が死去し、以後、母の内職で生活。

国民之友始・1887＝17歳：第四高等中学校に入学。虚弱で小さかったことから“まめまめ”と渾名されて自らも荳圃と号し、貸本屋に通って近世文学に耽溺、自らも筆を取りたいと思うようになり、

初の対等条約1888＝18歳：

帝国憲法公布1889＝19歳：西田幾多郎らとはかつて{我尊会}を結び、回覧雑誌で互評、饗庭篁村の影響を受けた多くの文を書いた。

帝国議会始・1890＝20歳：本科一部文科を卒業、美術学校への進学を希望するも、病弱のため1年休養し、盛んに抄録をしたり、源氏物語の研究に没頭して「系図」を作成したりする。

大津事件・1891＝21歳：西田の勧めもあって、帝国大学文科大学国文科(外山正一学長)に入学、赤門前に下宿、図書館に通っての抄録の作成や名所旧跡を訪ねての資料の蒐集に没頭し、

日清戦争始・1894＝24歳：卒業。史学会の雑誌に「心学の伝統」を連載、{北国新聞}に次々と小説を寄稿して収入を得るようになる。

日清戦争終・1895＝25歳：*友人平出鏗二郎と共著で「日本風俗史」を刊行。大阪府第一中学校の嘱託教師を経て、京都の真宗大谷派第一中学寮の教師となり大学寮の嘱託も兼ねる。寮の雑誌に次々と論文を発表、「国史綱」を刊行するうち、

八幡製鉄始・1897＝27歳：第三高等学校教授に迎えられ、暇をみては洛中洛外の名所旧跡・神社仏閣を巡り、絵画・彫刻を鑑賞、

子規句歌革新1898＝28歳：金沢の女性と結婚し、

Bushidou・1899＝29歳：長女が誕生、*「日本史教科書」を出版、

ピノ国産化・1900＝30歳：留学に出た芳賀矢一の後任として、東京帝国大学助教授に迎えられる。

田中正造直訴1901＝31歳：_中学校向けの「日本文学史教科書」、

教科書疑獄・1902＝32歳：_{帝国文学}に時論を発表して注目を浴びるようになる一方、第一臨時教員養成所講師、

日比谷公園・1903＝33歳：長男が誕生。早稲田大学高等師範講師を兼務。_「近世絵画史」を発表するに至る。気管支カタルに肺炎を併発して以降、健康が悪化するなか、{帝国文学}の評議員や審査委員を務める。

日露戦争終・1905＝35歳：*名著「国文学全史平安朝編」を刊行し、国文学で初めて論文によって文学博士号を受けた。

満鉄発足・1906＝36歳：次女が誕生するも、長女が夭折。その死を悼む「光終焉記」を著す。_「異本山家集」を上梓、論争となる。

韓国反日暴動1907＝37歳：第1回文部省美術展覧会(文展)の日本画審査員に任じられたが、内紛に嫌気して、

アヲキ創刊・1908＝38歳：第2回目前に辞任。

伊藤博文暗殺1909＝39歳：_前田家の依頼で旧藩主前田綱紀の事蹟を伝える「松雲公小伝」をまとめるが、

韓国併合・1910＝40歳：喘息発作から肺炎となり、_没した。